

はまかせ

風が運ぶお知らせ便り♪

2015
Vol.09

ワンランク上の病院をめざして

私たちは、患者さんの意思を尊重し、高度で良質な医療を提供することによって、地域社会に貢献します。



nishihosp.nishinomiya.hyogo.jp

Message メッセージ

消化器外科診療の最前線 ～地域がん診療連携拠点病院として～

■概要、Q&A、スタッフ紹介 etc.

Information お知らせ

■にしびようTopics

ブレレン県立病院(インドネシア)からの見学

■医師の一日

消化器外科 福永医師

■院長エッセイ「四季雑感」

季節限定の脂肪肝

■医療技術NOW!

超音波内視鏡下穿刺術

■絵の中の風景を旅するvol.9

にしびよう美術館館蔵品を毎回紹介



消化器外科診療の最前線 ～地域がん診療連携拠点病院として～

副院長兼外科部長／消化器外科部長：小林研二



3D体腔鏡による手術では特殊な眼鏡を用いることによって立体視ができ、精密な手術の助けになっています。



上：病棟での総回診の様子
下：消化器外科抄読会

「ワンランク上の病院」を目指しての意識改革、業務改善を進めてゆく中で、その一環として、この地域医療連携センター便りとしての「はまかぜ」が発刊され、カラー化されてすでに2年経過し、皆様のお手元にお届けしてきました。いろんな部署から、改善中、並びにその改善の結果が報告されてきました。今回は「消化器外科」よりお送りします。

「地域がん診療連携拠点病院」として、当院は平成22年9月3日に兵庫県の指定をうけています。「がん」の拠点病院に指定されているということは、がんの診療、教育、情報発信において十分なことが可能であるということです。がんの診療において、消化器外科としては消化器内科（腫瘍内科）、放射線科など他部署、多職種（認定看護師、薬剤師など）と協力して、今年の「はまかぜ」No.5号でもお知らせした消化器病センター、術前センター機能をいかし、消化器がんに関して、迅速な診断（症例によっては初診の当日中に診断がつき、治療方針まで判明することもあり）を目指しています。その結果、早期の治療に結び付けることを可能にしています。そして、消化器がんの手術において、上の写真に示す、今年導入した3D体腔鏡のような最新鋭の高機能な医療機器、高度な医療技術を駆使し、患者さんに有利となるような治療を行っています。

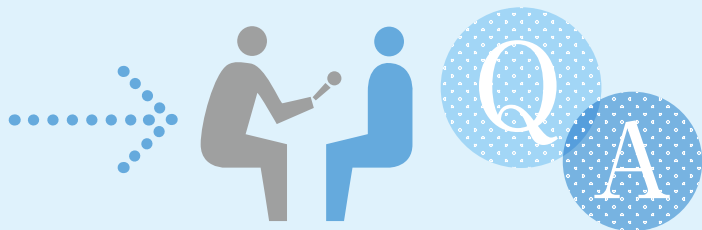
「消化器外科手術の進歩として、近年では、胃がん、大腸がん、食道がんなどに対する腹腔鏡、胸腔鏡手術の進歩の著しさには目を見張るものがあり（昨年は3D体腔鏡を導入）、手術侵襲（体に及ぼす影響）の軽減、創部の美容上の利点、入院期間の減少に結び付けています。また進行消化器がんに対する抗がん剤治療も外科の役割の中に含まれ、腫瘍内科の医師とともに、最新の情報のもとに適切な治療を行っています。

「ソケイヘルニアの治療はがん以外の一般外科としてとりあつかっていますが、腹腔鏡を用いた手術方法に力を入れ、多くの診療所の先生方のご支援も受け、ご紹介いただき、適切な治療を行うことができおり、数多くの患者様たちに喜ばれています。さらに、医師、薬剤師、看護師、理学療法士、臨床心理士などによるチーム医療としての緩和ケア、栄養サポートなどに積極的に参加し、患者さんに対する質の高い「がん治療」を提供しています。



緩和ケアラウンドの
カンファレンスの様子

消化器外科について質問! INTERVIEW



Q 消化器外科の手術を受けたら、どのくらいで動けるようになりますか?

A 手術後ほぼ全例の患者さんが、翌日に座ったり立ち上がったたりして、早期離床します。早期離床は合併症の予防に大変有用とされ、当院でも積極的に、痛みをコントロールしながら実施しています。手術の大きさや種類にもよりますがほとんどの患者さんは翌日に歩行できるまで回復します。

Q 手術後、傷口は痛くないのでしょうか?

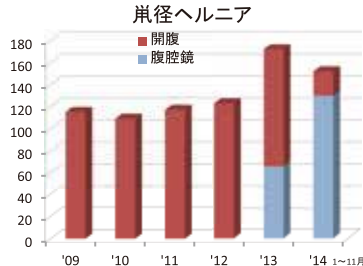
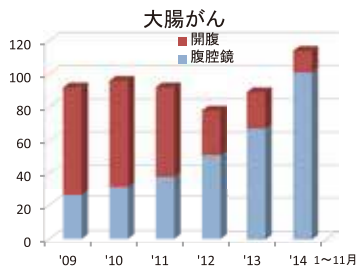
A 術後は薬剤による疼痛コントロールをします。十分に除痛効果が得られているか観察を行い、薬の調節を致します。体を動かしたり離床を進めるうえで、積極的に痛みをとり、コントロールすることは術後の回復過程においてもとても重要と考えています。

(7階病棟看護師長 俵 由紀子)

最新情報

消化器外科の手術件数です。2013年の消化器外科の手術件数は618件でしたが2014年は10月までで全身麻酔491件、脊椎麻酔19件、局所麻酔85件の計595(緊急108)件で、昨年の手術件数を大幅に上回る見込みです。また、今年度は3Dの腹腔鏡システムを導入するなど、ヘルニアや大腸がんで手術件数の増加とともに腹腔鏡手術の割合を増やしています。胃がんは内視鏡的切除や抗がん剤治療の進歩により手術件数は減少傾向にあります。肝胆膵がんの手術は年間約25例で、腹腔鏡下肝切除術も経験を重ねています。良性疾患では腹腔鏡下胆嚢摘出術を年間約90例、うち急性胆嚢炎の緊急手術を約20例行っています。

(消化器外科部長 福永 睦)



スタッフ紹介



- 小林 研二 (副院長 (医療連携・医療情報担当)・外科部長・消化器外科部長)
- 福永 睦 (医療情報担当部長・外科部長・消化器外科部長)
- 小西 宗治 (外科部長・乳腺外科部長)
- 三木 宏文 (外科部長・消化器外科部長・治験センター副センター長)
- 柏崎 正樹 (外科部長・消化器外科部長・中央超音波センター長)
- 太田 英夫 (外科医長・消化器外科医長)
- 吉岡 慎一 (外科医長・消化器外科医長)
- 平井 利明 (外科医長・乳腺外科医長)
- 濱野 梨絵 (外科医長・消化器外科医長)
- 久保 維彦 (外科専攻医)
- 柳澤 公紀 (外科専攻医)
- 徳山 信嗣 (外科専攻医)
- 織邊 圭太 (臨床研修医)
- 竹内 由起 (臨床研修医)



ブレレン県立病院(インドネシア)からの見学

インドネシアでの新たな救命救急医療病院の開設を控え、ブレレン県立病院関係者総勢10名の方が、当院救命救急センターを見学されました。お互いの病院紹介の後、地下1階にある救命救急センターにご案内し、ラピッドレスポンスカーをはじめ、初療室やICU病棟などの設備・体制について説明させて

いただきました。熱心に見学された後の意見交換会では、多くの質問が飛び交い、「大変参考になった」とのお言葉をいただき、日本とインドネシア両国の今後の救急医療の充実と発展を願いました。

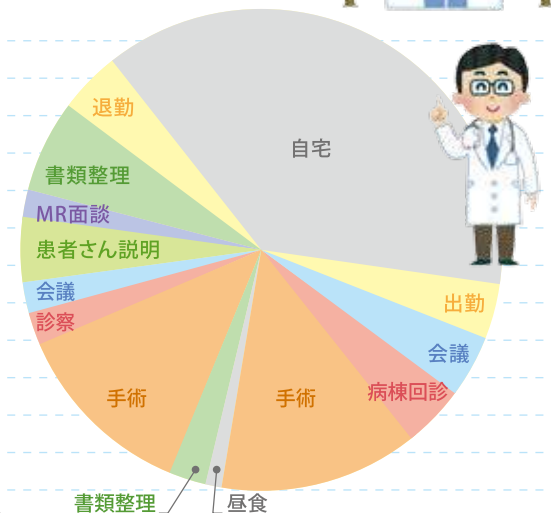


医師の一日

今号より、院内で働いている職員の日常に密着するコーナーを開始しました。第1回は消化器外科の福永医師です。



7:30	出勤	
7:30~8:30	会議	院長、副院長、各診療科長が出席する科長会のため資料準備。業務実績や保険査定、医療安全などの報告、指導など。電子カルテ更新リハーサルや今後のタイムスケジュールについて報告。週3日はカンファレンスを行う。
8:30~9:30	病棟回診	専攻医からの病状報告、担当患者の病室訪問。
9:30~12:45	手術	1例目の手術。腹腔鏡補助下の大腸切除術。閉腹を部下に任せ、患者家族に手術の結果を説明。
12:45~13:00	昼食	素早く食堂で昼食を取る。外来日や長時間手術では昼食時間が取れないことも多い。
13:00~13:30	書類整理	自室で配布書類に目を通す。提出が必要な書類はその場で処理しないと、次々と送られてくる書類に埋もれてしまう。
13:30~16:30	手術	2例目の手術。腹腔鏡補助下の大腸切除術。
16:30~17:00	診察	外来より術後患者の予約外診察の要請あり。CTや採血後に緊急入院の手続きを行う。
17:00~17:30	会議	全医師が出席し、医局全体の議案を検討する医局会に出席。電子カルテリハーサルの手順の説明を行う。
17:30~18:30	患者さん説明	2例目手術の患者家族に手術の結果を説明。また、新入院患者に治療内容、臨床試験の説明を行う。
18:30~19:00	MR面談	製薬メーカーMRと面談
19:00~20:30	書類整理	翌日の外来患者の予習、カルテチェック、メールチェック。県庁LANで4~5通、院内LANで10~15通のメールあり。読んだメールはどんどん削除。
20:30	退勤	



~密着結果~

月、水曜日は終日手術、木曜日は終日外来、火曜日は術後重症回診後病棟処置など日替わりかつ分単位で刻まれるスケジュールに加え、透視検査、緊急手術、救急患者対応など毎日走り回っています。自宅に帰ってからは、入浴後いつの間にか意識を失っていることが多いという福永医師。他にも夜間の専攻医からの病状報告、緊急呼び出し手術もあるため、自宅での飲酒はしていないそうです。また、当直、オンコール、研修会等で休日として過ごせる日は月1~2日のみと多忙を極めています。少しでも患者さんに寄り添い、力になれるよう日々精進されていました。(調査員 F)

四季雑感



大 寒も過ぎ、寒さが身に染みる季節になって
います。つい出不精になって家に閉じこもり
がちの方も多いかもしれません。炬燵に一旦足を
入ると、暖かい心地よさにじっとしてたく
なりませう。そのために運動不足になって、
体重が増える羽目になって
しまいますが、とくに雪国では、冬季は運動不足のために、
季節限定の脂肪肝となり肝機能が悪化するとい
う、うそのような本当の話があります。

先ごろ、フランスのリヨンにあり、世界保健機関の一組
織でもある国際がん研究所が、毎年、全世界で50万人が
肥満のためにがんで死亡していることを発表しました。
わが国においても、糖尿病とがんの関連が話題になって
います。というのは糖尿病の患者さんでは、そうでない患者
さんに比べて、全身のどこかのがんを発症する率が少し
高いという疫学的なデータが出されています。とくに
消化器がん(大腸がん、肝がん、膵がんなど)の発症率が
比較的高いといわれておりますので、検診などで早期

発見に心掛けるようにしたいものです。

西宮市では、約2年前から当院が中心になり、市医師会
と緊密に連携して、糖尿病患者さんが不幸にして消化器
がんなどを発症した場合に、できるだけ早期に診断して
治療するための西宮スタディを行っています。このスタディ
では、糖尿病の治療をきちんと受けることで、がんの発症
率が下がるかどうかを検討することになっています。残念
ながら糖尿病の治療効果とがんとの関連は今のところ
明らかにされていません。西宮スタディによって、「糖尿病
を適正に治療すれば、がんの予防につながる」という良い
結果が出れば、世界の糖尿病患者さんにとって新たな
福音になるのではないかと考えています。スタディに参加
されている多くの先生方とともに、スムーズに進めば
6～7年後に出るだろう成果を心待ちにしています。



兵庫県立西宮病院 院長
河田 純男



医療技術 NOW!

西宮病院の「NOW」がわかる。

【超音波内視鏡下穿刺術】

内視鏡センターでは、2011年10月よりオリンパス社製超音
波 gastro ビデオスコープGF-UCT260を装備し、EUSチーフ
柳川和範消化器内科医長のもと、超音波内視鏡下吸引
生検(EUS-FNA)による病理診断とともに、超音波内視鏡
下穿刺術を用いた治療にも積極的に取り組んでいます。
該当の患者様がおられましたら、ぜひご紹介いただければ
と存じます。

(内視鏡センター長:安永祐一)



2014年9月まで(3年間)の実績

超音波内視鏡下穿刺術:102例

対象病変:膵腫瘍42例、胃粘膜下腫瘍8例、

膵仮性嚢胞・膿瘍5例、膵炎4例など

- ★超音波内視鏡下吸引生検(EUS-FNA) 61例
- ★超音波内視鏡下胆道ドレナージ術 17例
- ★超音波内視鏡下腹腔神経叢ブロック 14例
- ★超音波内視鏡下膵仮性嚢胞・膿瘍ドレナージ術 5例
- ★超音波内視鏡下抗腫瘍局注療法 5例

絵の中の風景を旅する vol.9

<http://www.nishihosp.nishinomiya.hyogo.jp/>

当院外来ロビーや各病棟には、地域の方々や入院患者さん、そのご家族などからのご寄贈による200点以上にもぼる絵画が飾られています。“にしびょう美術館”の貴重な“館藏品”は、当院ホームページ内の「にしびょうWebミュージアム」でも常設展示していますが、これらの作品の中から、毎回、ちょっと気になる1作品をとり上げてご紹介いたします。と一緒に、絵の中の風景を旅してみませんか。



展示場所

本館2階
生理検査室横壁面

私はイタリアに行ったことがなく、「007」の映画等でしか知らないが、 gondola と狭い水路、石造建築物から多分、イタリア北東部に位置する「ベニス」の風景だと思われる。この絵を見ていると、狭い水路を多くの荷物を積んだ gondola が行き来し、陸上交通が発達している日本ではあまり考えられない風景だ。また、家の戸口が水路ぎりぎりに設けられ、 gondola から直接、人も物も出入りするのだと思うと、とてもおもしろい。一度、実際に現地に行き、豪華な gondola に揺られながらゆっくりと遊覧してみたくなる作品だ。

(総務部:足立彰久)

～ご案内～

2月7日(土) 14:00～ フレンテ西宮	第11回 県民公開講座	生活習慣病について ・腎臓病・心臓病・食事療法について
2月28日(土) 14:00～ フレンテ西宮	第5回 阪神南圏域合同セミナー	「結い」 みんなで築く地域包括ケアシステム

編集後記

編集室



広報誌「はまかぜ」は、これまで地域の先生方との架け橋となることを主眼として編集を行ってまいりましたが、今号からさらにワンランク上の広報誌を目指し、地域住民の方々にとってもより分かりやすい誌面作りを心がけ、少しでも皆様の健康につながるようリニューアルいたしました。今後とも、皆様のご期待にそえる広報誌を作成したいと考えていますので指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

(総務部総務課:清水健治)

H A M A K A Z E

2015.09
Vol.09

兵庫県立西宮病院

〒662-0918 兵庫県西宮市六湛寺町13番9号
TEL:0798-34-5151(代表) FAX:0798-23-4594

地域医療連携センター FAX:0798-34-4436

E-mail:chiiki-kn@hp.pref.hyogo.jp

nishihosp.nishinomiya.hyogo.jp

2015.02 発行